

他機関との連絡協力促進事業

ユースリーダーズ・トレーニング

- [主催] 九州地区大学体育協議会
[共催] 国立阿蘇青少年交流の家
[期間] 平成21年11月6日(金)～8日(日) 2泊3日
[会場] 国立阿蘇青少年交流の家
[参加状況] 159名
 学 生 126名
 教職員 33名
[講師] 講演『『動』～チーム作りと組織～』

長崎総合科学大学 教授 小嶺 忠敏 氏

1 事業の必要性

次代を担う青少年のリーダー育成は、現代社会において喫緊の課題であり、国立青少年教育施設としても青年リーダーの育成が求められている。国立青少年教育施設として、九州全体より学生のリーダーを集め、次代を担うリーダーを育成するとともに、大学間のネットワークを構築し、九州地区大学の活性化を図ることは重要な課題である。

2 趣 旨

体育系幹部を対象に、リーダーとしての知識を習得し、幹部としての責任、役割を身につけるとともに、九州地区大学の活性化等並びに大学相互の連帯意識の育成及びサークル幹部の資質向上を図る。

3 目 標

- (1) リーダーとしての知識を習得し、幹部としての責任や役割を身につけることができる。
- (2) 他大学の学生と積極的に関わっていくことができる。



分科会Ⅰの様子



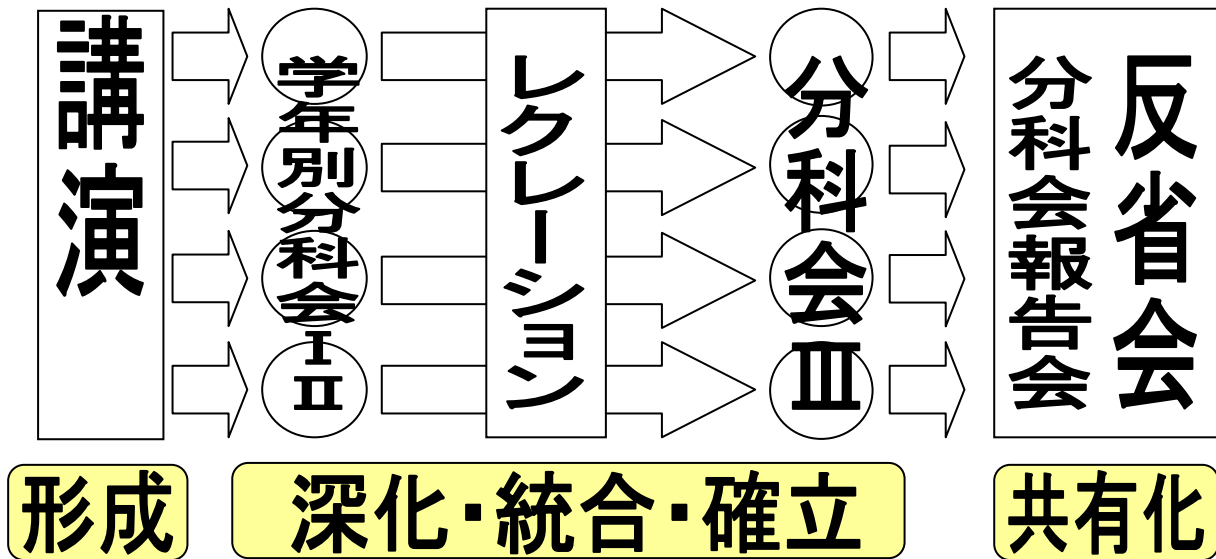
レクリエーションの様子

4 事業の実際

(1) 研修プログラム

	11/6 (金)	11/7 (土)	11/8 (日)
7:00		起床・洗面 クリーンタイム	起床・洗面 クリーンタイム
		つどい	つどい
8:00		朝食 自由時間	朝食 退所準備
9:00			退所点検 9:30～
10:00		途中参加者受付	
		分科会Ⅰ	分科会報告会
11:00	役員集合	議題「あなたにとって家族とは」	反省会
12:00	役員昼食	昼食	閉会式
13:00	参加者集合13:00 受付	分科会Ⅱ	解散12:30
14:00		議題「組織の環とは何か」	
15:00	開会式・OR 14:20～14:50	休憩・移動	
16:00	講演 【小嶺忠敏氏】	レクリエーション (ミニバレーボール)	
17:00		移動	
18:00	つどい 夕食	つどい 夕食	
19:00	入浴	入浴	
20:00		分科会Ⅲ 議題	
21:00	懇親会	「よりよい組織の環を育むには」 「リーダーとして環をどう活かしていくか」	
22:00	就寝準備	就寝準備	
	就寝	就寝	

<プログラム構成>



(2) 目標達成のための工夫点

① 学生主導による運営

学生主体による学生の目線での活動を行うことで、参加者一人一人が積極的にプログラムに参加し、お互いの交流がスムーズにできる環境を作ることができると考えた。そこで、学生の実行委員会を作り、学生の目線での活動を行えるように学生達に事前準備から当日の運営までを任せた。

② 学年別の分科会

参加者は1年生から4年生までが参加するため、意見を一人一人が積極的に出せるようにそれぞれの学年に分けて分科会を行った。また、学年別では共通の視点や悩み等があるため、議論の論点がより焦点化され、分科会での話し合いが深まると考えた。

③ 経験豊富な講師による講演

できるだけ身近な存在であり、尊敬できる方に講演を依頼することで、講演の内容から多くのことを学び取ろうとし、自分が目指していくものを明確にできると考えた。また、そのことは、リーダーとしての資質を高め、知識を習得することにつながると考え、監督としてチームを日本一に育てた経験がある九州出身の著名人の講師に講演を依頼し、これからのリーダー像やリーダーに必要なものなどについて分かりやすく講演をしていただいた。



分科会Ⅱの様子



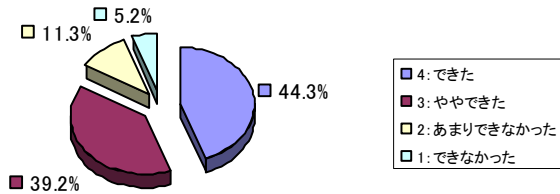
小嶺氏による講演の様子

5 結果

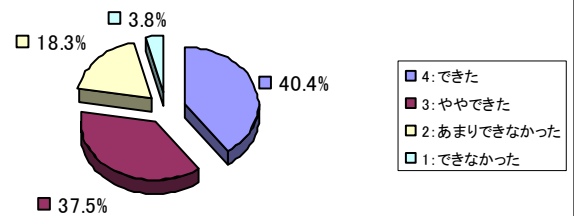
○ 参加者のアンケート結果は以下の通りである。

(1) 分科会に関するアンケート結果

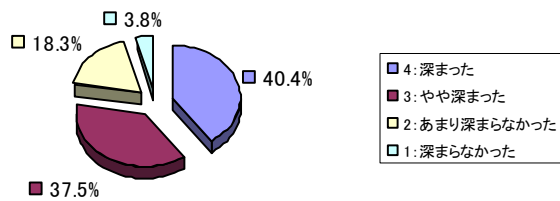
●分科会Ⅰでは積極的に意見交換ができましたか (グラフ1)



●分科会Ⅱでは積極的に意見交換ができましたか (グラフ2)



●分科会Ⅲでは考えが深まりましたか (グラフ3)



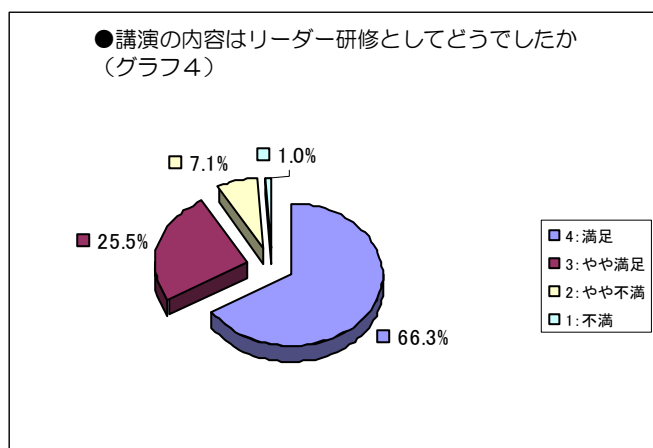
分科会Ⅲの様子



<参加者の分科会に関する記述>

- 組織において他の大学でも同じような問題点を抱えていたので興味深かった。
- いろいろな意見が聞けてためになった。考え方もいろいろあって勉強になった。
- 他の大学の良い点や悪い点が聞けて大変参考になった。この経験を生かして今後につなげていきたい。
- 具体的にどうしていけば理想に近づけるのかという案が不足していた。現実的ではない議論となったところがあった。

(2) 講演に関するアンケート結果

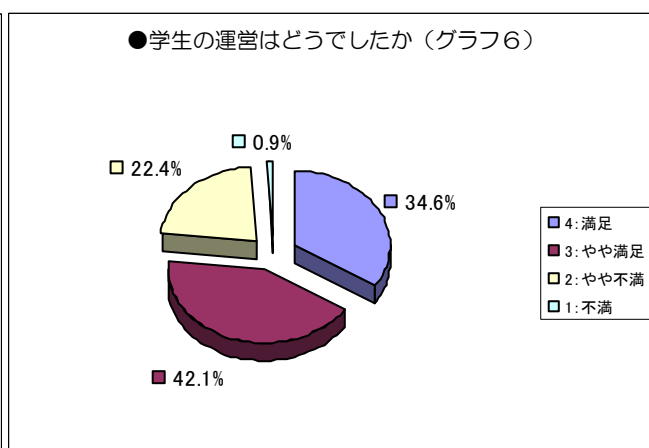
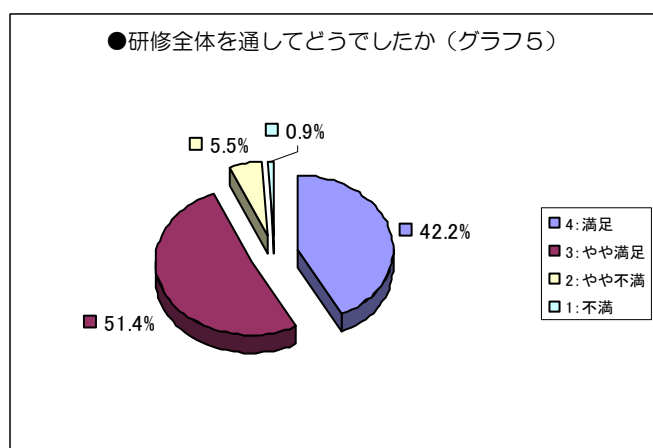


<参加者の講演に関する記述>

- 日本を代表する指導者の話が聞けて良かった。今後の人生に活かしていきたい。
- 自分の興味のある分野について話を聞くことができた。また、分析などこれからの活動に活かせるものが多かった。
- 身近な内容に興味を持てた。リーダーとしてどうあるべきかということを見て参考になった。

- 興味深い話だったが、テーマが少し分かりにくかった。

(3) 研修全体に関するアンケート結果



<参加者の研修内容や運営に関する記述>

述>

- 運営がうまく十分満足できる内容だった。研修中もよく発言が出て雰囲気よかった。レクリエーションや自由時間も楽しむことができ、仲間と親しむことができた。
- 「組織」というものを多種多様な分野の人々から意見を集めることができ、今後に生かせる納得策を出すことができた。
- 議長が円滑に会を進めてくれたので助かった。
- いろいろな大学の人と交流ができ、たくさん勉強することができた。
- 司会や議長の人たちが不慣れで不安がっている様子を感じられた。
- 役員はもっと一丸となって会を盛り上げてほしかった。みんなで盛り上げていこうという雰囲気を出せば、仲間意識や組織の話がもっと盛り上がったと思う。



分科会報告会の様子

6 成果と課題

① 成果

研修全体に関する参加者の満足度は93%であった。今回の事業には、九州各県より33の大学から学生が集まり、分科会やレクレーションを通して多くの交流が持てたことや多くの意見交換ができたことが満足につながったと考えられる。また、参加者のアンケートの記述には「分科会では多くの意見が出て盛り上がった」という趣旨の言葉が多くあり、学年別での分科会は事業の目的を達成するために効果があったと推察される。さらに、小嶺氏による講演は、90%以上の参加者から満足を得ており、「今後役に立ってほしい」という記述も多く、リーダーとしての知識習得に効果があったと考えられる。

② 課題

学生による運営面では、「不慣れ」「まとまっていない」という参加者の声があり、今後改善すべき課題である。また、分科会では、分科会Ⅱは昼食後、分科会Ⅲは、2日目の夜の活動であったが、参加者の満足度は分科会の回数を増すごとに下がっており、参加者の体調面や意欲面を考慮すると、2泊3日の日程の中にうまく分散させたり、プログラム内容や順序を変更したりすることも必要であると考えられる。さらに、参加者が事業後に学んだことを生活の中でどう活かしたかを検証できるようにすることも大切であると考えられる。

7 まとめ

このリーダーズトレーニングの事業は、組織がしっかりとできあがっている。今年度は学生と担当大学の教職員を中心に計画が立てられたが、今後は、事前準備の段階から国立の青少年教育施設としての専門的な知識や技能を活かした支援をしていく必要があると考えられる。そのために、例年運営実行委員会は、県での持ち回りとなっており、来年度の担当学生もわかっていることから、今後は早めに学生にアプローチをしかけ、打合せや事前準備にしっかりと関わりをもち、実行委員のメンバーが自身を持って運営に取り組めるように支援していきたい。